

## Q 13 卵巣刺激法ではどのような薬が使用されるのでしょうか

**A** 卵巣刺激法では、効率的に卵子を獲得するためにゴナドトロピン(性腺刺激ホルモン)製剤や内服薬(クロミフェンクエン酸塩やレトロゾール)を使用します。ゴナドトロピンとは卵胞の発育・成熟や排卵などを促すホルモンの総称で、内服薬もゴナドトロピンの分泌を増やすことで卵胞発育を刺激します。それぞれの製剤は以下のような働きをします。これらの製剤を卵巣機能や合併症などの患者背景に合わせて使い分けることで、どのように治療効果・安全性を改善することができるか、現在も検討が続けられています。

### 卵巣刺激法で用いる薬の種類

#### 卵胞を発育させる

卵胞刺激ホルモン (follicle stimulating hormone:FSH)  
 (精製下垂体性性腺刺激ホルモン、遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン)<sup>※1</sup>  
 ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン (human menopausal gonadotropin:hMG)  
 クロミフェンクエン酸塩  
 レトロゾール

#### 卵子の成熟を促す

ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (human chorionic gonadotropin:hCG)  
 GnRH アゴニスト (ブセレリン酢酸塩)<sup>※2</sup>

#### 排卵を抑制する

GnRH アゴニスト (ブセレリン酢酸塩、ナファレリン酢酸塩水和物)<sup>※2</sup>  
 GnRH アンタゴニスト (セトロレリクス酢酸塩、ガニレリクス酢酸塩)  
 黄体ホルモン (プロゲステロン) (ジドロゲステロン、メドロキシプロゲステロン酢酸エステル)

※1:卵胞を発育させる卵胞刺激ホルモン(FSH)製剤には、hMGから作られた精製下垂体性性腺刺激ホルモン (urinary follicle stimulating hormone:uFSH)と遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン (recombinant FSH:rFSH)があります。しかし、rFSH製剤とuFSH製剤を比較して、どちらがより効果的なのかはまだ明らかになっていません。

※2:GnRHアゴニストは使い方によって、卵子の成熟を促す効果も排卵を抑制する効果もあります。

#### 【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ10:体外受精法の卵巣刺激における注意点は？(卵巣刺激法・LHサーージ抑制法・検査) FSHはhMGと比較して卵巣刺激に有効か？